

# サクラの科学最前線

研究コーディネータ 河原孝行

サクラは万葉の頃より歌に詠まれ、平安時代には貴族が庭園づくりを、安土桃山時代には武家が花見を、そして江戸時代には庶民も園芸や花見を、と日本人が最も深くかかわってきた樹木です。サクラに関する芸能や文化は、能・歌舞伎から絵画・書籍に至るまで、あらゆるものに広がっていると考えるでしょう。近年でも大阪万博の日本パビリオンから百円硬貨まで様々なところにその意匠が取り入れられ、食べ物も桜餅からサクラ風味のチョコレートまで、街中にサクラがあふれています。サクラのすばらしさは、今やそれを観るために外国の観光客がわざわざ日本を訪れるほど広がりを見せています。

こんなに親しまれているサクラですが、その一方で、どのくらい多くの野生種や品種があるのか？サクラを育てるにはどうしたらいいのか？などなど、よく知られていないこともたくさんあります。この特集では、森林総合研究所が行っているサクラ研究の最前線をご紹介します。このような知識を持ってサクラを見直すと、歴史や生態に秘されたサクラの面白さが伝わってくるはずです。また、森林総合研究所多摩森林科学園には、本誌で紹介したサクラをはじめ、500系統約1300本ものサクラが集植されており、下の写真のようにあでやかさを競っています。読後には、ぜひ、来園して実物をご覧になっていただければ幸いです。

多摩森林科学園 東京都八王子市甘里町1-833-181 JR及び京王線高尾駅より  
徒歩約10分 問い合わせ先 042-661-0200 URL: <https://www.ffpri.affrc.go.jp/mnk/>



多摩森林科学園のサクラ保存林。品種により開花時期や花の色や形にさまざまな違いがある。